

砂名の ベトナムに乾杯

第21回 社会的隔離、真っ只中！街のようす。

ホーチミン市では5/28から始まった「社会的隔離」。レタントンの角打ち【日本酒で乾杯!】と、Pham Viet Chanh (PVC)【蔵】の角打ちは、通達が出たその日の夜、早々に店を閉めた。実際はその夜中0時から施行だったが、今回は厳しそうだと情報が流れ、昨年とは明らかに違うなと肌で感じ取れた。

二週間後、隔離は延長された。酒屋は「小売業」なので7月に入っても営業を続けていたが、スタッフSonの居住区にF0が出て封鎖。やむなく彼女はリモートに。ホームが封鎖され消毒される動画が送られてきた。買い物にも行けず、ラーメンや卵、お弁当が配給されたという。しかしその頃はまだONLINEショッピングは許可されていたようだ。私一人で店を続けていたが、7/9、とうとう「首相指示第16号/CT-TTgに沿った社会的隔離措置」が通達された。取り急ぎ仕事に必要な物と食料をかばんに詰め、店を閉めた。その夜、2015年以来お世話になっているSimba社と連携して、日本酒だけでなく日本の食品・食材も弊店の公式LINEアカウントで取り扱ってはどうかと考えた。速攻でBinh社長からGOサインが出て、夜更けまで掛かってSimb社の扱い商品から70品目をピックアップ。写真入りリストを作成し、翌日LINEで流した。現在もデリバリーを継続している。

そのうちに飲食店のデリバリーが禁止になり、続いてバイクでの配達も禁止に



デリバリーのドライバーさんから送られて来た写真。解除されたかと思いきや、検問所で引っ掛かった。

なった。24時間パトロールが行われ、不要不急の外出者は5,000円~15,000円の罰金が科せられる。不要不急の明確な定義は…ない。

7/23。解除どころか私が住むPVC Ward19が封鎖された。外部からのデリバリーも、住民がこの地域から出ることも禁じられた。Nguyen Huu Canからの入り口にはガードフェンス、内側にアーミー色のテントが張られ、公安は増員、検問所が設営された。スーパーに押し寄せた人たちは人数制限により、1メートル間隔で店の前に長蛇の列。さらにあぶれた人たちが、道路を挟んだ向かい側の歩道に大勢屯している。もしこの中にF0感染者がいたらと思うと、怖くておいそれとスーパーにも行けない。全地域に「買物券」が配布され、偶数日と奇数日に分け、一人週二回までの買い物が許可された。「必需品」でない荷物を運んでいるドライバーは罰せられ、実際に「冷蔵庫」を運んでいたドライバーに罰金が科されたと聞く。週

二回しか買い物ができず、雨季で気温30度前後のホーチミンで、冷蔵庫は必需品ではないのか？ という疑問や不服は、この国では持つべからず。

PVCの封鎖は7/31に解除されたが、ホーチミン市全体の社会的隔離8/1解除予定がまた二週間延長され、もうどれがどのタームなのかさっぱり分からなくなってきた。解除された8/1に、PVCのお客様にSimbaから荷物を届けようとしたが、解除されたにも関わらずNguyen Huu Canからの入り口が封鎖されていて、さらにお客様の居住区が封鎖中で外に出られず。結局、ドライバーは荷物を持ち帰らねばならなかった(後日、無事お届けした)。

感染力の強いデルタ株に置き換わっているベトナムで、7月末でワクチン接種率は4%台程度。この闘いはいつまで続くのだろうか。この号が発行される頃にはお店が営業できていて「皆さまのおかげで」と言えることを、祈るばかりである。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯!】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。